

学校通信 No.10

平成29年(2017年)7月18日号

伊丹っ子

「よい子 強い子 伊丹の子」
～あったか言葉で 笑顔いっぱい～伊丹市立伊丹小学校
校長 大橋 雅代

1. たなばた会

7月7日(金) 2校時、



1年生は、体育館で**たなばた会**を行いました。体育館には、クラスで作った七夕の笹飾りも立てました。七夕の歌をみんなで歌ったり、先生方のペープサートによる七夕のお話を聞いたり、ゲームをしたりしました。

5月に行ったこいのぼり会と違い、今回の司会進行は、子どもたちが行いました。クラスから代表が2人ずつ出てきて、声を合わせて今から行う内容をみんなに伝えます。また、七夕のお話を聞いた後は、お話の感想も発表しました。この2ヶ月で、1

年生の子どもたちがこんなにしっかりと司会をしたり、話したりできるようになったのかと、とても感心しました。

新しいことにチャレンジしたり、話を聞いてもらえたりする環境は、子どもたちの自己肯定感を育てます。様々なことに、どんどん挑戦させたいです。

七夕飾りは、校長室の前にも置き、願い事の短冊が誰でも書けるようにしておきました。「ゲームがほしい」や「仔犬を買ってほしい」という願いから、「剣道が上手になりますように」「25m泳げますように」という願いまで、様々な願いが飾られました。中には、「家族が幸せに暮らせますように」「世界が笑顔でいっぱいになりますように」という願いもあり、心がほっこりしました。私は、「伊丹っ子が 毎日元気で楽しい学校生活をおくれますように」と願いました。子どもたちは、学校であったことや家庭であったことなどに色々なことを感じながら登校しています。また、今日は学校に行きたくないと言う子どもたちもいます。そのどの子どもが、学校で元気に過ごせるように、つくっていきたいです。

☆☆☆どうぞ、みんなの願いが届きますように☆☆☆



2. 花の俳句in伊丹小学校

7月8日(土)は、地区やすこやかネット、保護者の皆様のご協力のもと、**花の俳句**が開催されました。伊丹小学校では、俳人の木割大雄先生をお招きして、ここ10年ほど続けて梅雨の時期に花の俳句を行っています。子どもたちはおよそ40名ほど、保護者の方も30名ほど来ていただきました。最初は、木割先生



から、俳句のお話をしていただいた後、校庭や猪名野神社で俳句作りを行いました。初夏の花の時期は、少し過ぎましたが木の実や夏の虫たちを見つけることができ、熱心に俳句作りができました。「真っ白の マーガレットは 日焼けする」「オニヤンマ



足はろっぽん 目がでかい」など、子どもならではの素敵な発想の俳句がたくさん生まれました。俳句作りを通して、豊かな感性が育ち、豊かな語彙が身についていくのではないかと思います。私は、その俳句を作っている時の子どもたちの心の中や様子を想像すると、とてもうれしくどきどきします。小さな感動を大切にしたいですね。

夏休みには、様々な体験をしたいと思います。その感動を俳句にしてみませんか。きっと素敵な句ができると思います。

木割先生の俳句から

「寄ってきて 見てよ見てよと 蟬のから」「女の子 帽子の上に 鬼やんま」